

英語科学習指導案（3年3組）

1 単元 The Story of Chocolate (PROGRAM 5 Sunshine English Course 3)

2 単元の目標及び評価規準

目標	「日本での生活で身近な物事の由来や歴史」について、内容構成を工夫しながら、日本に来たばかりのALTに興味をもってもらえるように、プレゼンテーションすることができる。		
評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①関係代名詞（主格）の使用場面や用法を理解している。 ②既習事項や関係代名詞（主格）を正確に用いながら、「日本での生活で身近な物事の由来や歴史」について話すことができる。	①「日本での生活で身近な物事の由来や歴史」について内容構成を工夫しながら、相手に興味をもってもらえるようにプレゼンテーションを行うことができる。	①「日本での生活で身近な物事の由来や歴史」について内容構成を工夫しながら、相手に興味をもってもらえるようにプレゼンテーションを行おうとしている。

3 単元設定の理由

(1) 教材観

本単元は、「日本での生活で身近な物事の由来や歴史」について、相手の興味に応じて話す内容の順番を考えたり、伝える事柄を選択したりするなど、内容構成を工夫しながらプレゼンテーションを行うことで、表現する力を高めていくものである。本単元の新出言語材料は、関係代名詞（主格）であり、これまで複数の文で表現していた内容をより簡潔に伝えたり、一文に含まれる名詞に情報を加えながらより詳細に伝えたりすることができる。そのため、「日本での生活で身近な物事の由来や歴史」についてより詳細に分かりやすく伝えることに適している。対話から、理解が難しい表現を、関係代名詞で情報を補足したり、既習表現を活用したりして分かりやすくプレゼンテーションを行うことで、学んだ表現を正しく使う知識・技能を高めることができる。また、質問をすることで相手の興味を引き出し、興味に応じて内容構成を工夫しながらまとまりのある内容を話す力を高めることができる。さらに、「『日本での生活で身近な物事の由来や歴史』について興味をもってもらう」という目的において、「内容構成を工夫しながら伝える」場面では、自分の調べたことを基に「『日本での生活で身近な物事の由来や歴史』を日本に来たばかりのALTに知ってもらいたい」という思いから必要感のある状況につながる。このことから、内容構成を工夫しながら相手に興味をもってもらえるようにプレゼンテーションを主体的に行おうとする態度を養うことができる。

(2) 生徒観（男子17名、女子17名 計34名）

- 知識・技能については、これまでの学習で身に付けた接続詞などの知識を基に、複文や重文が用いられた文章を聞いたり読んだりして大まかな内容を理解できる生徒が多い。一方で、即興的に発表やスピーチなどの表現活動を行う際には、発話に単文が多くなる傾向にあり、複文や重文を用いて表現することに対しては苦手意識をもっている様子も見られる。これは、複文や重文を用いて伝えたい内容を簡潔に話すために必要な語句や文法を活用する技能が不足していることに原因がある。
- 思考・判断・表現については、あらかじめ設定された目的・場面・状況等においては、工夫してやり取りをしたり、発表したりしようとする様子が見られる。一方で、即興的な対話を通して知った情報を基に、それに関連する新しい情報を付け加えながら会話を続けたり、会話の相手の興味に応じて話を発展させたりすることができず、数回のやり取りで会話を止めてしまう生徒が多い。これは、相手の反応に応じて会話を継続する力や未知の状況で目的に応じて即興的に情報を活用する力が育成されていないことが原因である。

4 指導と評価の計画（全6時間計画）

過程	時間	◎目標・課題	○学習活動	重点	記録	備考
つかむ	1	◎既習表現を用いて「日本での生活で身近な物事の由来や歴史」について伝えることができる。 「日本での生活で身近な物事の由来や歴史」を伝え合おう。	○試しの活動に取り組む。 ○単元の活動の目的・場面・状況等を知り、CAN-DO リストを使って、単元の個人目標を設定する。	態		・既習表現を用いて、新出単語を説明させる。
		単元の課題：「日本での生活で身近な物事の由来や歴史」について、内容構成を工夫しながら、日本に来たばかりのALTに興味をもってもらえるように、プレゼンテーションしよう				
追究する	1	◎関係代名詞（主格）の使用場面や用法を理解し、教科書本文を聞いて、内容を理解することができる。 チョコレートの由来や歴史について理解しよう。	○関係代名詞（主格）を使って、ペアで会話を行う。 ○教科書本文の内容を聞いて理解する。	知		・教科書本文を聞いて内容を理解する際には、必要に応じて個人で聞き取る速度を調整することで、理解が深まるようにする。
	1	◎関係代名詞（主格）が用いられたまとまりのある文章を読んで得た情報をメモにまとめ、概要や要点を説明することができる。 チョコレートの由来や歴史について理解したことをメモにまとめて説明しよう。	○教科書本文を読んで内容を理解する。 ○デジタルシンキングツールを使い、メモとして情報を整理する。 ○メモを基に教科書本文の内容を級友に伝える。	知		
	1	◎メモを基に、教科書本文の概要や要点を、相手に興味をもってもらえるように内容構成を工夫しながらリテリングすることができる。 チョコレートの由来や歴史について友達に興味をもってもらえるように説明しよう。	○メモを基に教科書本文の内容を級友に伝える。 ○「日本での生活で身近な物事の由来や歴史」についてのメモを作る。	思		
	1 (本時)	◎リテリングで学んだ内容構成を基に、「日本での生活で身近な物事の由来や歴史」について、内容構成を工夫しながら相手に興味をもってもらえるように伝えることができる。 リテリングで学んだ内容構成を基に「日本での生活で身近な物事の由来や歴史」について、内容構成を工夫しながら友達に興味をもってもらえるように伝えよう。	○級友の興味を知るために質問をする。 ○級友の興味に応じて「日本での生活で身近な物事の由来や歴史」について、内容構成を工夫しながら伝える。 ○表現活動を振り返り、再び「日本での生活で身近な物事の由来や歴史」について、伝える。	思	○	
まとめる	1	◎「日本での生活で身近な物事の由来や歴史」について、内容構成を工夫しながら、日本に来たばかりのALTに興味をもってもらえるように、プレゼンテーションすることができる。 「日本での生活で身近な物事の由来や歴史」について、内容構成を工夫して、日本に来たばかりのALTに興味をもってもらえるようにプレゼンテーションしよう。	○相手の興味を会話を通してつかみ、「日本での生活で身近な物事の由来や歴史」についてプレゼンテーションを行う。 ○個人目標を言語面と内容面から振り返る。	思態	○	思①：メモ・発表の様子 態①：メモ・発表の様子

5 問題解決の過程における ICT 活用の位置付け

ICT の活用のポイント **個** **協**

つかむ

1 単元の課題をつかみ、目標を設定する。

○単元目標を設定し、学習の見通しをもつ。

- ・本単元における表現活動の目的・場面・状況等を確認し、試しの活動に取り組む。
- ・試しの活動を通して感じた自己の課題と、本単元におけるコミュニケーションの目的・場面・状況等を踏まえて「言語面」と「内容面」から個人目標を立てる。

個 生徒は各単元で使用する CAN-DO リストをロイロノートで提出することで、学習の蓄積をし、学びを振り返ることができるようにする。

2 課題の解決に向け、単位時間ごとに追究する。

○新出言語材料の意味や使用場面を理解する。

- ・新出言語材料の音声や意味を確認する。
- ・具体的な目的・場面・状況等を設定し、新出言語材料を活用した表現活動に取り組む。
- ・「言語面」の定着を図る。

個 デジタル教科書の動画を活用することで概要を把握したり、新出言語材料の使用場面や意味、用法等について気付いたりすることができるようにする。必要に応じて繰り返し視聴することで、表現の意味と音声についても把握できるようにする。

○教科書本文の内容を理解する。

- ・教科書本文全体を聞いて、捉えた情報を個人でまとめたり、グループで共有したりしながら概要をつかむ。

協 共有ノートを使ってワークシートを作成、配布することで、グループで協働して教科書本文の内容を理解することができるようにする。

○教科書本文の内容や構成を考えながら正確な発音やアクセントで音読する。

- ・配布された音声教材(教科書本文を ALT が音読したもの)を活用して音読練習に取り組む。
- ・正確な発音、アクセント、音の連結等を意識したり、内容や構成を考えたりしながら音読練習をする。

個 音読練習時(リピート、シャドウイング等)の音声教材は音声のスピードを2段階用意して生徒に配布し、自分で選べるようにすることで、生徒が発音と表現を結び付けて理解することができるようにする。

○教科書本文の内容をデジタルシンキングツール上にメモとして整理して、リテリングする。

- ・これまでの授業で聞いたり読んだりしてとらえた教科書本文の内容を要約し、口頭で伝え合う。
- ・捉えた教科書本文の内容をメモにまとめ、グループのメンバーや他のクラスメイトのまとめも参考にしながら教科書本文の内容を伝える活動につなげる。

協 ロイロノートの比較機能を使って、異なったまとめ方の工夫をしているカードを比べることで、どんな工夫があるかを共有することができるようにする。

○教科書本文の内容を目的・場面・状況等を考慮して、リテリングする。

- ・教科書本文の内容を相手の知識や興味に応じてリテリングをする。

個 集めた情報や自分の考えをメモとしてデジタルシンキングツール上に整理することで、目的・場面・状況等に応じて内容の変更追記、組み替えが容易になり、効率的に内容を再構築しながら表現することができるようにする。

○リテリングで学んだ内容構成を基に、「日本での生活で身近な物事の由来や歴史」について、内容構成を工夫しながら相手に興味をもってもらえるように伝える。

- ・相手の興味に応じて内容構成に変化を加えながら、「日本での生活で身近な物事の由来や歴史」の発表を行う。
- ・発表後、内容構成について振り返る。

協 プレゼンテーション後、メモ上のカードを入れ替えたり、カードを付け足したりすることで、ペアで表現活動を振り返ることができるようにする。

3 言語活動に取り組み、単元を振り返る。

○「日本での生活で身近な物事の由来や歴史」について、内容構成を工夫しながら、日本に来たばかりの ALT に興味をもってもらえるように、プレゼンテーションする。

- ・前時に行った工夫を参考にしながら相手の興味に応じたプレゼンテーションができるようにする。
- ・本単元の学習を振り返り、成果と課題をまとめる。

個 プレゼンテーションした様子を動画に残しておくことで、単元目標を達成できたかどうかを客観的に振り返ることができるようにする。

追究する

まとめる

6 本時の展開 (6 / 7)

(1) 目標 リテリングで学んだ内容構成を基に、「日本での生活で身近な物事の由来や歴史」について、内容構成を工夫しながら相手に興味をもってもらえるように伝えることができる。

(2) 展開

<「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるためのICTの活用>

個 デジタルシンキングツールを活用した内容構成の加筆、修正の過程の視覚化

協 モニターやロイロノートの画面共有機能を用いた内容構成の工夫の共有

主な学習活動		指導上の留意点及び支援・評価
予想される生徒の反応	ICT活用<分類>	
<p>1 本時の課題をつかむ。</p> <p>○教科書本文の内容についてリテリングを行う。</p> <p>・教科書の内容を相手の知識や興味に応じて伝えることができた。</p> <p>・内容構成をどう工夫したかを思い出せた。</p>	<p>○メモを基に教科書本文の内容をリテリングする。<思考の整理></p> <p>○前時のリテリングで学んだ内容構成の工夫をスクリーンで共有する。<共有></p>	<p>○リテリングを行うことで、前時に学んだ内容構成の工夫を振り返ることができるようにする。個</p> <p>○リテリングを通して学んだ内容構成の工夫の方法を振り返ることで、それらを参考にして、「日本での生活で身近な物事の由来や歴史」について伝えることができるようにする。協</p>
<p>本時の課題：リテリングで学んだ内容構成を基に「日本での生活で身近な物事の由来や歴史」について、内容構成を工夫しながら友達に興味をもってもらえるように伝えよう。</p>		
<p>2 相手の興味に応じて「日本での生活で身近な物事の由来や歴史」について伝える。</p> <p>○質問から、相手の興味を把握し、「日本での生活で身近な物事の由来や歴史」について伝える。</p> <p>・メモの順序を入れ替えたり、新たな情報を付け加えたりして、発表を行うことができた。</p> <p>・もっと相手に興味をもってもらうには、どうしたらよいか。</p> <p>○代表の発表を参考にする。</p> <p>・友達に興味に応じて話す順番を工夫しているな。</p> <p>○メモを改良し、再び「日本での生活で身近な物事の由来や歴史」について伝える。</p> <p>・相手を変えて何度もやることで、いろいろな場合に対応できるようになってきた。</p> <p>・友達の工夫を取り入れたら、より興味をもってもらった。</p>	<p>○メモを基に「日本での生活で身近な物事の由来や歴史」について伝える。<思考の整理></p> <p>○相手の興味を確認するような質問ができるように、同じメモ上に質問内容もまとめておく。<思考の整理></p> <p>○発表を振り返り、どのような内容構成の工夫を行ったかを整理する。<思考の可視化><データの蓄積></p> <p>○ロイロノートで回答共有し、他の生徒の工夫に気付けるようにする。<共有></p> <p>○加筆したメモを基に発表する。<データの蓄積></p>	<p>○前時のリテリングで学んだ内容構成に沿って、情報をまとめておくことで、スムーズに伝えることができるようにする。個</p> <p>○「ロイロノート」を使ってメモを比較、共有することで、他の生徒が工夫した内容構成のよさに気付く。次の活動で生かせるようにする。協</p> <p>○最初に作ったメモと、対話から加筆したメモを比較することで、自分がどのような工夫をしたかを振り返ることができるようにする。個</p> <p>○相手の興味に関する情報を活用することに難しさを感じている生徒には、活用例を示すことで、相手の興味に応じて伝えることができるようにする。個</p>
<p>【思考・判断・表現】 リテリングで学んだ内容構成を基に、「日本での生活で身近な物事の由来や歴史」について、内容構成を工夫しながら相手に興味をもってもらえるように伝えている。(メモ・発表の様子)</p>		
<p>3 本時の振り返りをする。</p> <p>○振り返りシートに分かったこと・できたこと、分からなかったこと・できなかったこと、使用した表現についてまとめる。</p>	<p>○本時の振り返りを「ロイロノート」で提出する。<思考の整理></p>	<p>○内容構成の工夫を個人で振り返ることで、次時のプレゼンテーションに生かせるようにする。個</p>

<まとめ・振り返り>

・「日本での生活で身近な物事の由来や歴史」について、相手の興味に応じて話の順番や資料提示の仕方などの内容構成に工夫を加えることで、相手に興味をもってもらうことができた。より多く人と会話することで、いろいろな工夫を取り入れてコミュニケーションを楽しんでいきたい。